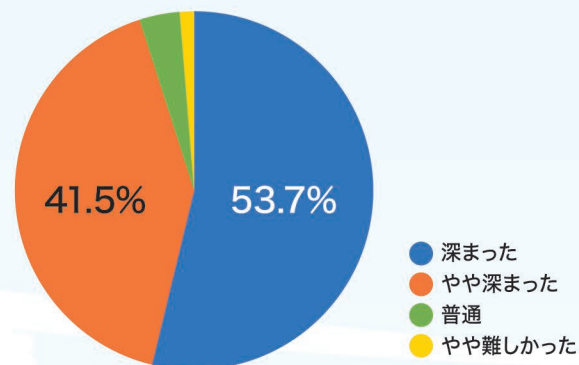


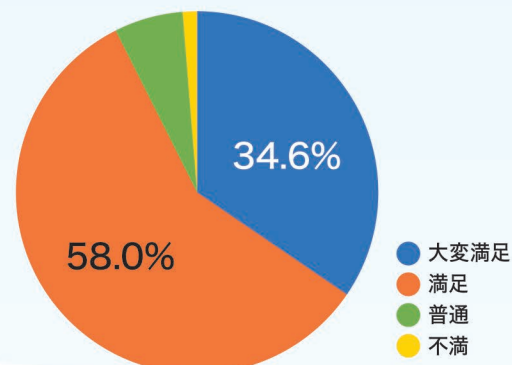
普天間飛行場の辺野古移設について
デニー知事トークキャラバンアンケート

トークキャラバンに参加した約95%の方々が
辺野古新基地問題について理解が深まったと回答しました。

「辺野古新基地建設問題や沖縄県の
基地負担の現状」について理解は深まりましたか？



今回のトークキャラバンの内容はいかがでしたか？



参加者の声

- ・基地問題について基本から知りたかったのだからわかりやすかった。
- ・自分自身も横田基地の近くに住んでいるため様々なことを考えさせられた。
- ・崎浜さんのような「Z世代」の方の意見を知ることができてとても有意義だった。
- ・学生たちに沖縄問題を考えてもらう貴重な機会となった。
- ・現状だけでなく、機関同士で起こっている詳細な問題を知ることができた。
- ・何となく聞いていた沖縄の基地問題が深刻であると感じた。
- ・全国の問題であるということに気づかされた。
- ・報道で言われていることだけでなく、自ら知見を深める努力をしようと思った。

QAB番組「CATCHY」追跡エモリ
ティアアップ企画が放送されました！

沖縄の基地問題について県外の皆さんにも『自分ごと』として考えてほしいとの
思いからはじめた玉城デニー知事のトークキャラバン。法政大学開催の様子がCATCHYで放送されました。

放送日 令和6年11月19日(火)

出演 榎森耕助、川満アンリ



こちらのQRコードから
アーカイブ視聴ができます。

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。



大学生の崎浜さんの言葉が同世代に響いている感じがして、大人たちが語る場を用意して、
若者同士に語ってもらうというような、次の世代にバトンを渡すことも大事だと思いました。



大学で考える「普天間飛行場の辺野古移設について」
デニー知事トークキャラバンin法政大学

玉城デニー沖縄県知事が、トークキャラバンで法政大学にやってきます！

日米両政府による普天間飛行場の返還合意から28年、

市街地の中心にある基地の危険性はいまだに除去されていません。

なぜ変わらないのか？ なぜ沖縄に基地があるのか？ これからどうすればいいのか？

基地問題を抱える沖縄の「今」を、そして「これから」についてデニー知事と一緒に考えてみませんか？



沖縄県公式Youtubeにて、
トークキャラバンのアーカイブ視聴ができます。
QRコードを読み取って下さい。

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

https://www.youtube.com/watch?v=3KKJtN8_9W4

会場 法政大学市ヶ谷キャンパス富士見ゲート
G502教室 (東京都千代田区富士見2-17-1)

玉城デニー沖縄県知事による基調講演

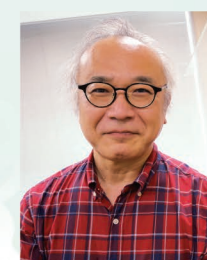


沖縄県うるま市(旧与那城村)出身
1991年頃 ラジオパーソナリティ/タレント
2002年9月 沖縄市議会議員選初当選(1期)
2009年8月 衆議院議員選初当選(4期)
2018年9月～ 沖縄県知事(現在2期目)

プログラム

【第1部】玉城 デニー沖縄県知事基調講演
【第2部】明田川 融 法政大学教授基調講演
【第3部】パネルディスカッション

学生からパネリストへの質疑応答も行います。
基地問題の素直なギモン、デニー知事に聞いてみよう！



明田川 融(法政大学法学部教授)
日米地位協定や日米安保体制について研究。



木村 司(朝日新聞社会部次長)
「知る沖縄戦」の企画・執筆などを担当。



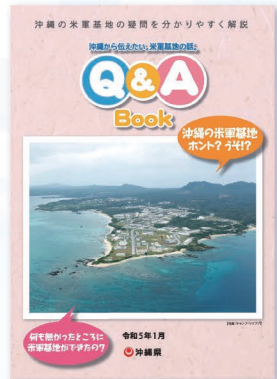
崎浜 空音(慶應義塾大学学生)
沖縄戦や基地問題、選挙に関する情報を
SNSで発信。

玉城デニー知事による発言要旨



玉城 デニー（沖縄県知事）

こちらをご覧ください！



沖縄から伝えたい。
米軍基地の話。
Q&A Book



- ・今回の法政大学の開催に当たっては、明田川先生はじめ、法政大学の先生方にご協力をいただいた。法政大学沖縄文化研究所は、1972年の開設以来、沖縄の様々な分野について学生の皆さんとともにその足跡を記してされており、心から敬意と感謝を申し上げる。
- ・沖縄にある米軍専用施設面積合計すると約1万8483ヘクタール。これは東京都の面積の約8.4%、山手線の内側の3つ分に相当する広大な面積となっている。
- ・県と市町村が連携して調査をして取りまとめた航空機騒音の測定結果では、普天間飛行場の滑走路の延長線上にある上大謝名というポイントにおいて、「航空機のエンジン近く」の音に相当する120.6デシベルという値を計測した。
- ・普天間飛行場や嘉手納飛行場周辺の川や湧水から、自然界では分解されず、製造や使用について国際的に規制の対象となっている有機フッ素化合物が、国の暫定指針値を超えて検出されている。
- ・普天間飛行場は、沖縄本島中部にある宜野湾市の面積の約24%を占め、東京ドーム約100個分に相当する。広大な基地が街の真ん中にあり、2003年当時のアメリカの国防長官であったラムズフェルドという方は、「世界一危険な飛行場」と発言したと言われている。
- ・普天間飛行場の危険性除去を巡っては、日米両政府は、この普天間飛行場を辺野古に移設するのが唯一の解決策だとしているが、2019年2月に行われたこの普天間飛行場移設のための辺野古移設の賛否を問う県民投票において、回答した方の72%が埋立て反対としている。
- ・大浦湾は谷状に深い地形となっており、水面下90mまで軟弱地盤が続いている。この軟弱地盤の改良工事については、当初の設計書にはなかった。
- ・設計書の変更について、7万本以上の砂杭を打ち込む地盤改良工事が実現できるかどうか、その工事によって環境を破壊することにならないかどうか、県は公有水面埋立法に則って厳正に審査を進めたが、埋立部分の一番深いB27というポイントの調査結果を沖縄防衛局は一向に出してこなかった。
- ・出してこない以上、この地盤が大丈夫かどうかということは確定できないと考えているが、「ここから少し離れた地点の地層がそのまま続いているので、この地層は検査しなくても大丈夫」という回答が沖縄防衛局からあった。
- ・例えば、皆さんが将来土地を買って家を建てるときに、設計士から「土地の中の1ヶ所がどうも掘っても掘っても底まで届かない。でも、すぐ隣と同じ地質だから大丈夫です。工事続行します」と言われているようなもの。そこにお金をかけられるのか。
- ・沖縄の基地問題や様々な問題を通して、自分たちの未来をどう考えるかということ話を話合っていく、ひとつひとつの問題はそういうことを皆さんに問いかけているということを受け止めてもらいたい。日本の将来、地域の将来、国民にとっての権利とは何か、民主主義とは何か、ということと一緒に考えてもらいたい。

【総括コメント】

今日のトークキャラバンを一つのきっかけとして、皆さんが様々な問題を考えていくときに「自分としてはどうするんだろう」ということを、皆さんの考える力でしっかりとその方向性を見つけてほしいと思います。

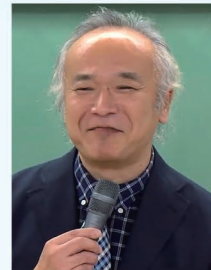
平和が全ての原点になくってはならないということ、これからも沖縄から発信し続けていきたいと思っています。

当日の様子



登壇者 発言要旨

いま 基地国家の現在



明田川 融
(法政大学法学部教授)

- ・米軍は、米軍専用基地だけを使っているわけではなく、自衛隊が管理下に置いている基地も一時的に使用しており、この共同使用のハードルを低くするような議論もある。
- ・これが意味するところは、南西シフトで南西諸島に配備された自衛隊基地を米軍が使うときのハードルが低くなる可能性が今後あるということ。
- ・米軍専用基地は沖縄県に7割が集中しており、南西諸島で展開している自衛隊基地を米軍が使う際の手続きは今後簡素化される可能性が高い。それから、特定利用空港・港湾も沖縄県にあるとなると、沖縄の負担軽減という声があるにも関わらず、ここ近年は沖縄に軍事力が集積しているという印象を持っている。
- ・これまで研究してきた中から、基地との道連れを避けるために2つ提案をしたい。1つは日本が直接武力攻撃を受けていない紛争に、日本の基地から米軍が出撃する場合には事前協議の対象となっているため、これを有効に使う。
- ・もう一つの提案は、奄美大島から沖縄本島を含む南西諸島、それから台湾から対岸の中国の福州から上海ぐらいまでの辺りを軍備制限地域にするという取り決めで日米中台の4者での枠組みの中でつくる。薄皮を1枚1枚剥がしていくような努力も必要だ。

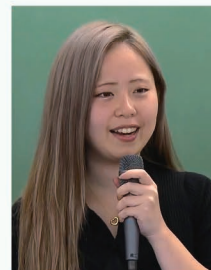
取材を通じて知った沖縄



木村 司
(朝日新聞社会部次長)

- ・今日、私が皆さんに伝えたいのは、基地問題をはじめとする沖縄のいろいろな話は、外から見えるものと、生活・暮らしの中から見えるもの、あるいは何かの当事者になってしまったときに見えるものが大きく違うということ。
- ・沖縄には、トータル6年間住んでいた。いざ沖縄で暮らしてみると、本当に次々と全く知らなかった理不尽なことがたくさんあった。それを全国の人たちに伝えなければという思いで取材をしていたが、それ以上にショックを受けたのが、この米軍基地や部隊がなぜ沖縄にこんなにたくさんあるのだろうか取材をして、巡り巡って辿り着いたのが古里の山梨県だったこと。
- ・沖縄にある米軍基地の6割は海兵隊。空軍・海軍・陸軍・海兵隊、米軍には4つの軍があり、海兵隊が戦後最初に日本に展開したのは本土、沖縄以外の日本全国だった。
- ・具体的にその一つが、富士山のふもと山梨・静岡の辺りだった。1950年代以降、日本各地で米軍基地の事件・事故が起こった結果、全国的に基地の撤去を求める声が高まって、人口の多い地域からは米軍基地を減らしていき、1972年以前の米軍統治下にあった沖縄に米軍基地を集中させていくという構図で結果的に今のかたちが出来上がった。
- ・沖縄を取材するつもりでいたが、気づいたら自分の取材対象はむしろほとんど日本本土になっていた。これが、私にとっては大きなギャップ。最初のイメージとは全く違う世界が今現在見えている。

基地のある町で育つ



崎浜 空音
(慶應義塾大学学生)

- ・私は、慶應義塾大学の学生で、出身が沖縄県。私と皆さんで違うのは、私は基地のある北谷町で育ち、基地の存在が身近にあったこと。
- ・2017年12月、普天間第二小学校のグラウンドに米軍のヘリから重さ8キロの窓枠が落ちる事故が発生した。当時の普天間第二小学校の学級だよりには、「私達は今までも危険な状況にしながら、その状況に慣れすぎてしまっていました。このような状況を変えていくために頑張らなくてはなりません。」など綴られていた。
- ・事故当時に学級担任をされていた先生は、米軍基地の問題について、県外の方にも「まずは知ってほしい。知ってどう考えるかは自由。けれども知らないで答えを出さないでほしい。」と話されていた。
- ・私たちは当たり前前の権利が守られてほしい。ただそれだけ。生まれた場所が違うだけでこのような扱いを受けていいのか皆さんに考えてほしい。
- ・基地のそばには住む人がいて、生活がある。防衛や安全保障など、もちろんいろいろな意見があるのは分かるが、そこに住んでいる人をないがしろにして進めないでほしい。私たちは透明人間ではない。
- ・これは沖縄だけの問題ではない。日本の主権の問題。沖縄に対して関心を持って行動してほしい。皆さんに目を向けてもらうことが大きな一歩だと思っている。